

## 第16回日本介護学会 研究発表募集要綱

第16回日本介護学会における研究発表を募集いたします。必要書類を整え、**受付期間内**に所定の方法によりお申込み下さい。多数のご応募をお待ちしております。

### 1. 第16回日本介護学会概要 ※第25回全国大会と同時開催となります。

メインテーマ：

「Remind 創造的復興を目指す熊本から発信！！～生活支援の専門職の価値～」

日時：平成30年11月2日（金）～11月3日（土）

会場：熊本県熊本市（市民会館シアーズホーム夢ホールほか）

### 2. 募集する研究発表テーマ

- ①「認知症」
- ②「災害支援」
- ③「共生社会（認知症、障害、地域連携など）」
- ④「人材確保・育成（教育）」

※募集テーマは4つですが、分科会は3分科会となります。各分科会の会場は、参加券等の発送に合わせ参加者へご案内いたします。

### 3. 申込方法

別紙「研究発表に際しての留意事項」をご確認の上、提出物の全てを受付期間内にメールにて送信いただくか、またはCD等の記録媒体にて事務局宛に郵送して下さい。これ以外の方法によるお申し込み及び受付期間外のお申し込みについては受理いたしませんので、予めご了承下さい。

### 4. 申込受付期間

平成30年3月12日（月）～5月31日（木）必着

### 5. 申込み必要書類（提出物）

- ・研究発表申込書
- ・共同発表者登録書
- ・抄録

### 6. 申込先

メールの場合：[2018gakkai@jaccw.or.jp](mailto:2018gakkai@jaccw.or.jp)

郵送の場合：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-13 西勘虎の門ビル 3階  
日本介護福祉士会内『日本介護学会』行

★★★研究発表とあわせ、ポスターセッション発表も募集しています。★★★  
テーマ：「自立支援、地域連携（交流）、アクティビティなど ※その他のテーマでも可」  
応募方法等の詳細は「ポスターセッション募集要綱」をご参照ください。

(別紙) 【 日本介護学会 研究発表に際しての留意事項 】

- 研究発表者は、日本介護福祉士会または日本介護学会会員であることが条件です。非会員の方は、入会の手続きをお願いいたします。(日本介護福祉士会会員の方は、自動的に日本介護学会会員となります。介護福祉士国家資格を有する方は、演題申込までに日本介護福祉士会への入会手続きを完了してください。また介護福祉士国家資格を有さない方は、演題申込までに日本介護学会への入会手続きを完了してください。)
- 共同研究者は、以下の条件を満たしていることが条件です。
  - ①介護福祉士国家資格を有する方は、日本介護福祉士会会員であること
  - ②日本介護学会会員であること
  - ③上記以外の方は研究発表者、共同研究者を合わせた人数の半数未満(例：人数が6名の場合、2名)までであること
- 発表者は「第25回全国大会・第16回日本介護学会」への参加申込が必須です。別途必ず参加申込を行って下さい。
- 複数人で発表される場合、代表者のみ「研究発表申込書」をご記入いただき、その他の方の情報は「共同研究者登録書」にご記入のうえご提出ください。(事務局からの連絡は発表申込書に記載されている方にさせていただきます。)
- 発表するテーマは、要綱記載のものから選択し、申込書に必ず明記して下さい。  
(※テーマは未発表のものに限ります)
- 抄録は所定のテンプレートを使用して、A4用紙2枚にまとめてください。テンプレートは日本介護福祉士会ホームページ (<http://www.jaccw.or.jp>) からダウンロードしてください。なお、テンプレートとは違う体裁で作成された抄録の場合、採否に影響する可能性があります。
- 発表の採否は、投稿された抄録の内容が日本介護学会に相応しい内容かを複数の学会委員によって査読のうえ判断し、選考結果は文書にて代表者へ通知いたします。採用された方は当日発表用の資料(パワーポイントデータなど)のご準備をお願いします。
- 発表は実践に基づく研究を優先させていただきます。
- 事例を使用する際は、個人情報保護及び倫理上の問題を事前に解決しておいてください。これらの問題に関して、当学会は一切の責を負いません。

※詳細、ご不明な点は日本介護学会事務局までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

公益社団法人日本介護福祉士会内

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-13 西勘虎の門ビル 3階

TEL : 03-3507-0784

FAX : 03-3507-8810

Email : [2018gakkai@jaccw.or.jp](mailto:2018gakkai@jaccw.or.jp)



モバイルサイトからお問い合わせ



# 共同研究者登録書

	ふりがな 氏 名	所 属 (勤務先・研究会名称など予稿集に掲載を 希望される所属先をご記入下さい)	会員番号 ※非会員の場合は 「非会員」と記入	登壇 ※発表時に登壇す る方は○を記入
代 表 者 (研究発表申込者)				
共同研究者 1				
共同研究者 2				
共同研究者 3				
共同研究者 4				
共同研究者 5				
共同研究者 6				
共同研究者 7				
共同研究者 8				
共同研究者 9				

# 日本介護学会抄録テンプレート

## ——分かりやすい抄録と充実した発表に向けて——

研究者氏名<sup>1</sup>，共同研究者氏名<sup>2</sup>，共同研究者氏名<sup>2</sup>

1) 所属      2) 所属

### I. 研究目的

この抄録テンプレートは、介護研究の成果を研究発表会に向けてまとめる際、抄録の形式を統一するために作成したものである。

基本的に、このテンプレートの書式を変更せず、各グループの研究内容にあわせて、具体的な文章や図表をこの書式に書き込んでいくことにより、統一感のある、高品位な抄録集が作成できることになる。

なお、発表会用抄録の分量は、本形式で2ページとする。したがって、結果や考察の部分については、特に研究目的に直接関わる中心的な内容を整理して紹介するよう工夫することが大切である。

発表会当日は、パワーポイントによるプレゼンテーションが一般的であろうから、その際に提示する図表等を多少追加したり、分かりやすく大きく提示したりするなど工夫を凝らすにしても、基本的には、この抄録における内容を中心に発表することで、研究論文の基本構成<sup>1)</sup>に沿い、手順や焦点が明確な発表が可能となる。では、以下に各項目において書くべき内容と、その形式を示す。

まず、この項目には、なぜこの研究に取り組んだのかという研究の背景や問題意識、この研究で明らかにしようとしていることを述べる。今回の研究における「仮説」についてもここに書くこと。

### II. 研究方法

研究方法の記入例は以下の通り。質問紙調査とインタビューを組み合わせた場合などは、それぞれについて書くこと。

#### 1. 対象

2008年12月時点で、A介護老人保健施設の全職員150名を対象とし、回収数は120票(回収率80.0%)であった。

#### 2. 調査方法

留置法による自記式質問紙調査

#### 3. 調査実施期間

2008年12月1日～12月25日

#### 4. 主な調査内容

職員の経験年数や資格等の基本属性に加え、介護事故の未然防止対策の取り組み状況、ヒヤリ・ハット研修の参加状況、介護事故発生時の対応など20項目について調査を実施した。

#### 5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、当該施設の倫理委員会に承認を得るとともに、調査対象者への調査目的の説明を行い協力の同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行った。

#### 6. 分析方法

職員の経験年数や資格等の基本属性、ヒヤリ・ハット研修の参加状況については単純集計およびクロス集計で示した。研修参加有無と介護事故発生時の対応との結びつきの検討にはカイ二乗検定を用いた。

### III. 結果

ここでは、具体的なデータの数値や、統計的検定の結果、インタビュー内容を整理したものなど、あくまで客観的な事実を述べる（考察部分と混同してしまわないように気をつける）。

それぞれの研究内容に応じ、いくつかの小項目に分けて、箇条書きなどにより明確に記述すること。項目ごとに、必要に応じて表やグラフなどを提示すること。ただし、どのような表やグラフを示すのが結果を伝える上で効果的か、十分に吟味する。

研究目的において提示した仮説に対して、何らかの答となるデータが提示できているか確認しながら書くことが大切。

表1 職業的地位に関する判別分析の結果

#### 標準化された正準判別関数係数

性別	0.046
介護職経験年数	0.870 **
現在の勤務先勤務年数	0.185 **
介護福祉士資格	-0.029

\*\*p<.01

上のように表の場合は、表の通し番号とタイトルを表の上側に、図（グラフなど）の場合は、下側に書く。図表は下のグラフのように文字のサイズ等、あまりにも見づらくなってしまわないように工夫する。

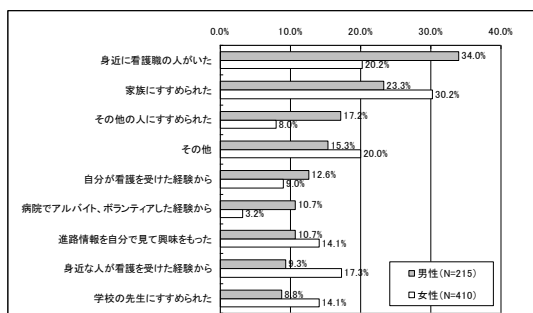


図1 看護系学校への進学のかきかけ

#### IV. 考察

ここでは、結果を分析し、明らかになったことがらどんなことを意味しているのか、自分たちなりに考えて述べる。考察で述べられる内容は、あくまで結果の部分で示されたデータに根拠づけられたものであること。

また、残された問題点や疑問点も検討し、今後の研究の発展のための手がかりも明らかにしておく。

#### V. 結論

結果と考察を通して、結局、本研究で明らかになできたことが何であるのかを簡潔に総括する。

#### 謝辞

本研究にあたり御協力くださった〇〇に感謝いたします。というふうに、研究対象や研究協力をいただいた方々に感謝を述べる。

#### 引用・参考文献

- 1) 矢原隆行 (2010) 『よくわかる介護福祉研究入門—現場の気づきから課題解決、成果の共有、そして社会発信へ—』 保育社。

上記のように、本文中で引用した文献や特に参考にした文献を掲載順にあげる。引用箇所には<sup>1)</sup>のように引用注を付けておくこと。

文献の書き方は、書籍であれば、上のように、著者、刊行年、書籍名、出版社。

雑誌論文であれば、次のように、著者、刊行年、論文タイトル、雑誌名、巻号、ページ数。

- 2) 矢原隆行 (2002) 「男性看護職をめぐる課題と戦略——その隘路と可能性について」『看護学雑誌』 66 (11) : 1006-1011.

調査報告書であれば、次のように、著者、刊行年、報告書名。

- 3) 日本看護協会出版会 (1999) 『平成 11 年看護関係統計資料集』。

インターネット上の統計資料などを使った場合は、次のように、著者、発表年、資料タイトル、および、アドレスと確認した年月日。

- 5) 厚生労働省 (2006) 「平成 17 年賃金構造基本統計調査」  
( [http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index\\_k-roudou.html#rou4](http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index_k-roudou.html#rou4), 2008.9.29)

以上の形式と内容を踏まえて、ぜひ充実した抄録を作成し、研究発表に向けて頑張ってください。